

平成 2 8 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 2 8 年 4 月～平成 2 9 年 3 月

1. 学校概要

学校名 北九州市立藤松小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
所在地 〒 8 0 0 - 0 0 4 7
北九州市門司区藤松一丁目 1 9 - 1
E-mail fujimatsu-e@kita9.ed.jp
Website http://www.kita9.ed.jp/fujimatsu-e/
児童生徒数 男子 1 3 4 名 女子 1 1 3 名 合計 2 4 7
児童・生徒の年齢 6 歳～1 2 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

① 教科を通して

本校では、ESDの視点に立った年間指導計画を作成し、自然・社会や人とどう関わらせるのか、「自分の立てた計画に従って主体的に行動する力」「物事を多面的・総合的に考える力」「他者の考えのよさを認め、自分の考えをよりよくしていこうとする力」を育成するにはどうするのかなどを念頭に置いた指導に取り組んでいる。理科・生活科の指導では、1年生活科「いきものだいすき」2年生活科「うごく、うごく、わたしのおもちゃ」3年理科「豆電球にあかりをつけよう」4年理科「もののあたたまり方」5年理科「流れる水のはたらき」6年理科「土地のつくりと変化」の公開授業を行い、目的意識をもった指導、系統性をもって自然との関わり・社会や人との関わりを大切にされた指導を行った。これらの3～6年生の学習は、福岡県理科教育研究大会を本校で開催した際、公開したものである。さらに、3年生総合的な学習の時間「韓国と友達になろう」では、韓国の方と交流し、文化の相違点や共通点を感じたり、5年社会科「食料生産を支える人々」では、稲作体験を通して、食料生産について考えたりする学習を組んだ。

1年生「生き物だいすき」



自分の生き物を一人一人が世話をした。毎日、餌をやったり、虫かごを掃除したりしていた。一人一人が世話をすることで小さな生き物にも命があることを意識することができた。

2年生「うごくおもちゃ」



動くおもちゃをつくるには、何が必要かを友達や先生に聞いて、楽しく遊べるおもちゃを製作した。

3年生「豆電球にあかりをつけよう」



どうすれば、豆電球が点灯するのか、点灯しない場合はどんな場合かを一人で調べたり、話し合ったりした。

4年生「もののあたたまり方」



示温インクを使い、水の温まり方を考える実験。次の時間では空気の温まり方を学習した。その後、効率的な部屋の温め方を考えた。

5年生「流れる水のはたらき」



プラスチックのケースの中に川をつくり水を流して、流れる川のはたらきを考えた。その際、最近のゲリラ豪雨の災害についても調べる活動を行った。

6年生「土地のつくりと変化」



地層のでき方、地震のしくみ、液状化、津波のしくみ等の実験を行い、それに伴う災害、防災について考えた。

②特色ある取り組み

環境委員会の活動としての太陽光パネルの発電量の記録、ペットボトルキャップ・プラタブキャップの回収、環境日記「みどりの小道」挑戦、北九州市エコライフステージ参加、朝のボランティア清掃、「さとうの挨拶運動」等は引き続き取り組んでいる。

全校児童・保護者対象の昆虫教室

元校長松田勝弘先生を招き、昆虫教室を行った。松田先生の持っている世界の昆虫の百箱の標本箱を展示、児童は、世界の「昆虫の分布」や「昆虫採集の仕方」「昆虫の標本の作り方」等を講話して頂いた。最終日には、3・4年生と親子昆虫教室を開き、松田先生と共に校区の公園へ昆虫を採集に出かけた。



希望者対象のアフタースクール

放課後の時間を使い、希望者を募り、伝統文化である「お茶」「お花」「囲碁・将棋」「そろばん」教室を設定している。講師は地域の方にボランティアをお願いしている。

(お花教室)



(そろばん教室)



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）